

# 四日市港地震・津波対策検討会議（第3回）

## 議事概要

日時：平成24年2月19日 10:00～11:30  
場所：四日市商工会議所（1F 会議所 H）

### 1. 開 会

### 2. 出席者紹介

### 3. 座長挨拶

座長：四日市港振興会 小菅弘正 会長

### 4. 議 事

- (1) 四日市港地震・津波対策検討会議（第1・2回）について
- (2) 中部の港湾における地震・津波対策に関する懇談会（第2回）について
- (3) 津波シミュレーション（暫定版）結果について
- (4) 四日市港の地震・津波対策に関する基本方針（案）について
- (5) 四日市港の基本方針の具体化に向けた取り組み
- (6) 海上保安部からのお知らせ
- (7) 意見交換

#### <国会議員等>

- 今回策定した「基本計画」の具体化には、官民など関係機関の協力・連携が不可欠。
- コスト面も含め、効率的な対策の検討が必要。
- 地域住民への情報提供が重要。
- 直下型地震に対する対策についても検討が必要。

#### <自治体等>

- 霞ヶ浦地区において港湾物流業者を中心とした協議会を設立し、避難に対する検討を始めたところ。今後、四日市地区についても同様に検討を進めていく。
- 過年度に実施した護岸の老朽度調査結果をもとに、現在、整備の優先順位を検討中。優先順位の高い箇所から改良を予定。
- 今回の津波シミュレーション結果では、霞ヶ浦地区の霞大橋の位置で津波が高い。この結果を踏まえて避難計画を策定する必要がある。
- 津波避難マップの配布や避難ビルの指定するなど対策を講じているところ。防潮堤の管理など情報共有が重要。

○人命・資産を守るため、海岸堤防の強化、霞 4 号幹線の整備を進めてほしい。

<民間等>

- 霞地区には、約 10000 人の従業員等がおり、避難路の確保が必要。
- サイロ等、民間施設を避難施設として活用してはどうか。
- 基本方針に掲げた対策の着実な実行が大切。
- 企業単独での対策は限度がある。力強い連携が不可欠。
- 護岸は、コンビナートのみならず、背後地域も守る護岸である。護岸のかさ上げや液状化対策を要望する。
- 海側からの物資輸送のため、早期の航路啓開が必要
- 流出防止対策について連携して考えていきたい。

<国>

- 港湾関係において、津波対策における制度を充実させていきたい。
- 今後、中央防災会議の検討を踏まえ、適切な役割分担の下、対策を具体化させていきたいと考えている。

<座長>

- この会議では、5 連動地震に対する新たな津波高さを示し、その対策の基本方針について皆様から色々なご意見を頂いたところ。
- この基本方針について、どのように実行に移していくかが重要であり、関係の方々のご協力のもと、できるだけ早急に実現していただきたい。